

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
看護学概論	1	30 時間 (15 回)	1 年次・前期	中畑 千恵	
実践的教育内容	看護師として5年以上従事し、専任教員として必要な研修を修了した者その上専任教員として3年以上従事している者（教務主任）が「看護とは」何をする職業なのかを教授する。				
学習目標	1. 「看護師とは」「看護とは」「看護師の役割と機能」が理解できる 2. 看護の対象としての人間を理解することができる 3. 健康の定義・概念や生活モデルから健康のとらえ方がわかる 4. 多様化する看護の提供の場を理解することができる 5. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割を理解できる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 看護を学ぶにあたって	講義	10 回	1. 看護の歴史	講義
2 回	2. 看護とは		11 回	1. 生涯発達し続ける存在の人間	講義
3 回	3. 看護の変遷と歴史	講義		1. 人間の「暮らし」の理解	
4 回	1. 看護理論家それぞれの主要概念	講義	12 回	1) 生活者としての人間	講義
5 回	2. ヘンダーソンの主要概念の考え	講義		1. 国民の健康状態と生活	講義
6 回	1. ヘンダーソンの主要概念と私の生活行動	GW		1) 健康とは何か	講義
7 回	2. ヘンダーソン 14 項目の要約	ミニ発表	13 回	2) 国民の健康状態	
8 回	1. 覚えてほしい専門用語	講義		3) 国民のライフサイクル	
9 回	2. 多職種とはどんな人か	講義	14 回	1. 看護の役割と機能	
	1. ナイチンゲール覚え書			1) 看護の継続性と連携	
	2. ナイチンゲール覚え書と現代の病院の環境と看護の関係		15 回	2) 多職種チームの連携と継続的にかかわり	講義
	1. 人間の「こころ」と「からだ」を知るこの意味	講義・DVD		1. 看護の提供のしくみ	
	2. ホメオスタシスと看護			1) 看護職者の継続教育	
				2) 看護師としての倫理	
				3) 看護管理と組織	講義・試験
				1. 国際看護	
				2. 災害看護	
				終講試験	
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 看護概論 (医学書院)		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
看護コミュニケーション	1	15時間（8回）	1年次・前期	中山 奈緒美	
実践的教育内容	看護師として5年以上従事し、専任教員として必要な研修を修了した者により、コミュニケーションを強化する内容としてグループワークを多く取り入れ、他者理解できるよう教授する。 (精神看護学領域担当教員)				
学習目標	1. 看護におけるコミュニケーションの特徴と重要性を理解する 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程や、適切なメッセージを伝える方法について理解する 3. コミュニケーションの基本的な方法について学び、実践する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1. コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 医療におけるコミュニケーション	講義	5回	4. 効果的なコミュニケーション 1) 傾聴の技術 2) 説明の技術	講義・演習
2回	2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーション手段 2) 構成要素と成立過程	講義・演習	6回	3) 情報収集の技術	講義・演習
3回	3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的行動と非接近的行動	講義・演習	7回	6. コミュニケーション障害 1) コミュニケーション障害のある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応	講義・演習
4回	4. プロセスレコード	講義・演習	8回	終講試験	試験
評価方法	筆記試験 100点	教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院)		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
ヘルスアセスメント	1	30 時間 (15 回) 20 時間 (10 回) 8 時間 (4 回)	1 年次・前期	我孫子 由華 白樫 亜由美	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で基礎看護学領域についての教授方法を修了した者が、基礎看護教育の全領域に共通する技術として、全身状態をアセスメントできる力を身に付けられるよう教授する。				
学習目標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する 2. フィジカルアセスメントについて理解し、必要とされる技術を習得する 3. 全身状態を系統的にアセスメントできるためのフィジカルアセスメントの基礎的知識を習得する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 我孫子	1. ヘルスアセスメントとは	講義	6 回	1. バイタルサインの観察とアセスメント	講義 講義
2 回 我孫子	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3. 心理・社会状態のアセスメント	講義	7 回 我孫子	1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識	
3 回 我孫子	1. 診断技法・情報収集 2. 問診のロールプレイング	GW 講義	8 回 9 回	1. バイタルサイン測定	演習 演習 演習
4 回 我孫子	1. フィジカルアセスメントに必要な技術 2. 全身状態・全体印象の把握	講義	10 回 我孫子 11 回	1. 系統別フィジカルアセスメント	講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・試験
5 回 我孫子	1. 計測 1) 身長・体重・腹囲 2) 測定演習	講義・演習	12 回 13 回 14 回 15 回 白樫	1) 呼吸器系 2) 循環器系 3) 腹部 4) 神経系 終講試験	
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I (医学書院)		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
看護過程	1	30 時間 (15 回)	2 年次・前期	中川 真希	
実践的教育内容	看護師として5年以上従事し、専任教員として必要な研修を修了した者 で、実習で一人受け持ちの学習で対象者としてしっかり関わることができる 老年看護学領域担当の教員が、看護過程展開の基礎を教授する。 (実習調整の任のあるもの)				
学習目標	1. 看護過程の概念と構成要素がわかる 2. 看護の視点に基づくアセスメントの意義とプロセスを理解する 3. アセスメントに基づいて看護問題を抽出する 4. 看護問題を解決するための看護計画を立案する 5. 看護過程における実施・評価の意味と位置づけを理解する 6. 看護における学習支援の目的と意義を理解する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の 保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 看護過程の基礎 1) 看護過程とは何か 2) 看護過程と看護の定義 3) 看護過程と看護理論の 関係	講義	6 回	③アセスメントの実際 グループ発表	演習
2 回	2. 看護過程尾構成要素と 展開 1) 各段階の展開に必要な 基本的知識と展開方法と クリティカルシンキング 2) 看護過程の構成要素 3) アセスメントツール	講義	7 回	④アセスメントの実際	演習
3 回	3. 紙上患者を用いた 看護過程の展開 (事例を読み解く)	演習	8 回	4. 関連図 (患者の全体像) の理解	講義・演習
4 回	①アセスメントの実際	演習	9 回	①関連図作成	演習
5 回	②アセスメントの実際	演習	10 回	②関連図作成	演習
			11 回	③関連図を用いて対象を 理解する	演習
			12 回	グループ発表	講義・演習
			13 回	5. 看護計画立案・援助 実施・評価について	
			14 回	6. 看護記録	講義・演習
			15 回	7. 学習支援 まとめ 終講試験	講義・演習 講義・試験
評価 方法	筆記試験 50 点 演習レポート評価 50 点		教科書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I (医学書院)	

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
生活援助技術論 I	1	30 時間 (15 回)	1 年次・前期	中川 真希	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修を修了しているものが、療養上の生活環境について具体的に考えられるよう教授する。				
学習目標	1. 療養環境をアセスメントするための基礎的知識・観察点を理解する 2. 療養環境を整えることの意義とその方法を理解し、安全な療養環境を整えるための技術を習得する 3. 対象者・看護師にとって安全で有効な身体の使い方（ボディメカニクス）を習得する 4. 対象の活動・休息の状態をアセスメントし、対象に応じた活動・休息（睡眠）への援助方法が選択できるための基礎的知識・援助方法を習得する 5. 対象の苦痛緩和や安楽を確保するための基礎的知識や援助技術を習得する				
D P と の 関 連	■1)多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6)健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1. 看護における安全な環境とは	講義	8回	1. 療養環境を整えるための援助の実際	演習
2回	2. 環境をアセスメントすること 1. 療養環境を整えるための環境条件	講義・演習	9回	臥床患者のシーツ交換 1. 活動と休息を整える視点とその方法（基本肢位と安楽な体位、臥床による弊害）	演習
3回	2. 病棟・病室・病床の構造と構成 1. 療養環境のアセスメント	講義・演習	10回	1. 活動と休息を整える視点とその方法（活動・運動のアセスメントと援助の実際）	講義・演習
4回	2. 病床環境の観察方法とその分析・解釈 1. 療養環境を整えるための援助の実際	演習	11回	1. 活動と休息を整える視点とその方法（睡眠と休息のアセスメントと援助の実際）	講義・演習
5回	病床の整備（環境整備） 1. 安全かつ効果的に身体を使う・動かす（ボディメカニクスの活用）	講義・演習	12回	1. 安楽な体位と体位変換の実際	演習
6回	1. 療養環境を整えるための援助の実際	演習	13回	1. 対象の状態に合わせた移動援助の実際	演習
7回	ベッドメイキング	演習	14回	1. 安楽を目的とした罨法の実際	講義・演習
			15回	終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験 100点		教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II (医学書院)	

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
生活援助技術論Ⅱ	1	15 時間 (15 回)	1 年次・前期	中川 真希	
看護実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で、基礎看護学領域についての教授方法を修了している者が、生活援助技術の原理原則を身につけられるよう教授する。				
学習目標	1. 栄養状態や食行動・食生活に関するアセスメントの視点を理解し、対象のニーズに応じた援助方法の選択及び援助方法を習得する 2. 排泄の性状や排泄行動に関するアセスメントの視点を理解し、対象のニーズに応じた援助方法の選択及び援助方法を習得する				
D P と の 関 連	<input checked="" type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント	講義	7 回	6. 導尿 (一時的導尿) 膀胱留置カテーテルの管理	講義・演習
2 回	2. 食事援助の実際 (経口摂取可能)・嚥下体験	演習・講義	8 回	7. 排便を促す援助 1) 浣腸、敵便 終講試験	講義・試験
3 回	3. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 胃チューブ挿入と流動食注入	講義・演習			
4 回	4. 排泄の意義 1) 排泄のメカニズム 2) 排泄のアセスメント	講義			
5 回	5. 排泄援助の実際 1) トイレでの排泄介助	講義・演習			
6 回	2) 床上排泄援助 3) おむつ交換	講義・演習			
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
生活援助技術論Ⅲ	1	30 時間 (15 回)	1 年次・前期	我孫子 由華	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で、基礎看護学領域についての教授方法を修了している者が、清潔援助技術の原理原則を踏まえ、全領域に共通する技術が身につけられるよう教授する。				
学習目標	1. 清潔行動に関するアセスメントの視点を理解し、対象のニーズに応じた援助方法の選択及び援助方法を習得する				
D P と の 関 連	<input checked="" type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 清潔の援助の基礎知識 1) 皮膚、粘膜、口腔内の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助の決定	講義	11 回	7. 整容・口腔ケア	講義・演習
2 回	2. 入浴・シャワー浴 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 演習	12 回 13 回	8. 病床での衣生活 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義・演習
3 回	3. 全身清拭 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 演習	14 回	9. 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習
4 回	4. 洗髪 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 演習	15 回	まとめ・終講試験	講義・試験
5 回	5. 手浴・足浴 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 演習			
6 回	6. 陰部洗浄 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義・演習			
7 回					
8 回					
9 回					
10 回					
評価方法	筆記試験	100 点	教科書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II (医学書院)	

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
診療補助技術論 I	1	30 時間 (15 回) 10 時間 (5 回) 10 時間 (5 回) 10 時間 (5 回)	1 年次・後期	望月 和美 白樫 亜由美 中山 奈緒美	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で、基礎看護学領域についての教授方法を修了している者が、感染予防・呼吸循環を整える技術や検査などの診療補助技術の実際について教授する。				
学習目標	1. 感染防止の基礎知識を理解し、標準予防策の実際を学ぶ 2. 呼吸・循環を整えるための基本的な看護技術を習得する 3. 創傷管理について基本的な知識を理解し、創傷処置、褥瘡処置、褥瘡予防について学ぶ 4. 検体検査や生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 感染防止の技術 1) 感染と感染症 2) 感染予防 3) 感染経路別予防策	講義	9 回	2) 排痰ケア 3) 口腔内吸引 4) 気管内吸引	講義 演習
2 回	2. 標準予防策 (スタンダードプレクション) 1) 基礎知識 2) 手指衛生 3) 個人防護用具	講義・演習	10 回	7. 創傷管理の基礎知識 1) 創傷処置の実際 2) 包帯法	
3 回	3. 手指衛生 ガウンテクニック		講義	11 回	9. 褥瘡予防ケア 1) 発生要因・好発部位 リスクアセスメント
4 回	4. 洗浄・消毒・滅菌 1) 保管方法 2) 無菌操作とその後 3) 滅菌物の取り扱い	演習	12 回	10. 検体検査 1) 血液、尿、便、喀痰 検査	講義
5 回	4) 感染性廃棄物 5. 安全確保の技術 1) 事故防止	講義	13 回	2) 生体情報 ・心電図、SPO2 ・血管留置カテーテル モニター	
6 回	2) 転倒転落防止	講義	14 回	11. 検査、診察の介助 1) X線、CT、MR	講義・試験
7 回	6. 呼吸・循環を整える 技術	講義・演習		2) エコー	
8 回	1) 酸素吸入・吸入	演習		3) 穿刺 終講試験	
評価 方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II (医学書院)		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
診療補助技術論Ⅱ	1	30 時間 (15 回) 18 時間 (9 回) 12 時間 (6 回)	1 年次・後期	大久 明子 重田 ゆかり	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で、基礎看護学領域についての教授方法を修了している者が、薬理学との関連を考へて、看護上必要な薬物管理の在り方と確実な投与技術・検体血液の取り扱いについて教授する。				
学習目標	1. 与薬の基本的知識を習得する 2. 薬物の種類・投与経路の違いによる作用機序を理解し、安全かつ確実な投与技術を理解する 3. 血液検査の目的に合わせた血液検体の採取・取り扱い方法を理解する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 与薬の基礎知識 1) 与薬の目的 2) 剤形と吸収経路 3) 薬理作用とその影響因子	講義	9 回 10 回 11 回 12 回	1. 注射の実施演習 1) 皮下注射 2) 筋肉注射 3) 静脈内注射	演習 演習 演習 演習
2 回	1. 与薬の種類と特徴 1) 経口与薬 2) 吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	講義	13 回 14 回 15 回	1. 検体検査 1) 血液検査 (静脈血採血、動脈血、血糖測定) 終講試験	講義・演習 講義・演習 講義・試験
3 回	1. 援助の実際 1) 経口与薬：水薬、散剤、錠剤	講義・演習			
4 回	1. 注射の基礎知識	講義・GW			
5 回	1) 皮下注射	講義・GW			
6 回	2) 皮内注射	講義・GW			
7 回	3) 筋肉注射	講義・GW			
8 回	4) 静脈内注射 1. 輸血管理 1) 輸血の基礎知識 2) 輸血の実際、留意点	講義・GW			
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
臨床看護総論	1	30 時間 (15 回)	2 年次・前期	我孫子 由華	
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で、基礎看護学領域についての教授方法を修了している者が、各領域に共通する治療処置別看護の基本を教授する。				
学習目標	1. 健康問題を持ち、医療の対象となった人への治療や処置を学ぶ 2. 治療処置を受ける患者への援助提供過程、臨床看護の基礎を理解する				
D P と の 関 連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 2 回	1. 救急救命センターを訪れる患者の特徴 1) 主な疾患、症状、検査、治療、看護 2) 他部門、多職種との連携、協働	講義 講義	9 回 10 回 11 回	1. 化学療法を受ける対象者への看護 1) 対象の理解 2) 原理・目的・副作用 3) 看護の実際 4) セルフマネジメント	講義 講義 講義
3 回 4 回 5 回 6 回	2. 手術療法を受ける対象者への看護 1) 目的、看護師の役割 2) 手術療法による生体への侵襲、麻酔法 3) 術前・術中・術後の看護	講義 講義 講義 講義	12 回 13 回	1. 放射線療法を受ける対象者への看護 1) 種類と性質、原理 2) 影響する要因 3) 目的、照射方法 4) 被爆からの防護 5) 患者、家族への援助	講義 講義
7 回	1. 集中治療を受ける対象者とその家族への看護 1) 対象・家族の特徴 2) 治療・看護	講義	14 回	1. 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	講義
8 回	1. 輸液療法を受ける患者の看護 1) 目的・種類 2) 必要とする状態、看護	講義	15 回	1) 検査・処置の種類と特徴 2) 看護援助 終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 系統看護学講座 専門 I 臨床看護総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論		

【 専門分野 基礎看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名		
臨床推論演習	1	30 時間 (15 回) ①14 時間 (7 回) ②14 時間 (7 回)	2 年次・前期	①西 真理子 ②中川 真希		
実践的教育内容	看護師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修を修了しているものが、基礎看護学で学んで知識を活用し臨床判断能力が身につくよう演習を行い、看護実践を考えることができるよう教授する。					
学習目標	1. 既習の知識を統合し、対象の状態・状況が観察できる 2. 対象の状態に応じた看護実践が考えられる 3. 主体的・対話的学びを通して、学習成果を深めることができる					
DPとの関連	<input type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■ 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■ 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■ 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■ 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。					
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法	
1 回 (西)	1. 臨床判断、 臨床推論とは 2. 観察技術と方法 1) フィジカル アセスメント 2) 問診、情報収集 3) 健康障害から生じて いる症状 3. 事例課題と演習 1) 演習の目的 2) 必要な事前学習 3) 対象の状態・状況 4) シミュレーション 4. リフレクション 5. 事例課題と演習 1) 必要な事前学習 2) 対象の状態・状況 3) シミュレーション 6. リフレクション	講義	10 回	7. 事例課題と演習 1) 必要な事前学習 2) 対象の状態・状況 3) シミュレーション 8. リフレクション 9. 全体を通して 臨床判断に必要なこと まとめ 終講試験	講義・GW 演習 演習	
2 回 (西)		講義 GW	11 回		講義・GW	
3 回		講義・GW	12 回 (中川)		講義・GW	
4 回 (西)		演習	13 回 (中川)		講義・GW	
5 回 (西)		講義・GW	14 回 (西)		講義・GW	
6 回		講義・GW	15 回 (西)		講義・GW	
7 回		演習			講義・GW	
8 回 (中川)		演習			講義・GW	
9 回 (中川)		講義・GW			講義・GW	
評価方法		筆記試験 100 点 (①50 点 ②50 点)	教科書			系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 系統看護学講座 専門 I 臨床看護総論 系統看護学講座 専門 II ①～⑭